

## 「御名をほめたたえます」

(詩篇8・1-9)

### 一、詩篇8篇の構造

詩篇8篇は、ある構造を持っていません。それは、始めと終わりが同じ言葉だということ。1節の3行目までの、

「主よ 私たちの主よ あなたの御名は全地にわたり なんと力に満ちていることでしょう。」が、そのまま9節に現れます。作者は何を意図して、このように配置したのでしょうか。良く分かりません。ひよつとすると、後に礼拝で用いるために手が加えられ、交唱と言

いまして、会衆が1節の箇所を唱え、2節以降の箇所を祭司が唱え、最後に会衆が9節を唱えたとする可能性もあります。しかし推察の域を出ません。そこで、無難な受け止め方をするのがよろしいかと思えます。すなわち、大きく的を外さない受け止め方です。そう考えるなら、8篇の構造からひもといで行ったらよろしいかと考えます。すなわち、1節と9節が、間にある2節から8節を挟んでいるという構造です。

### 二、イスラエルの賛美

旧約時代、イスラエルの神は、他の国々の神々と著しく異なっていました。エジプトにはエジプトの神々があり、

アッシリアにはアッシリアの神々があり、バビロニアにはバビロニアの神々があり、ペリシテにはペリシテの神々がありました。ところがイスラエルに現れられた神は、天地万物万民の上におられるおひとりなる神でした。そういうわけで、イスラエルの預言者たちは、国境を越えて、エジプトに預言の言葉を語り、アッシリアに語り、バビロニアに語りました。

神はおられる、そして私共にご自身を現された神は偉大にしてほめたたえられるべきお方である、とは世界を正しく見るための前提です。創造主なる神を意識しなければ、何のために宇宙が存在するのか、何のために人間が存在するのかが分かりません。

### 三、幼子たち、乳飲みみ子たちが

2節をご覧ください。「幼子たち 乳飲みみ子たちの口を通して あなたは御力を打ち立てられました。あなたに敵対する者に応えるため 復讐する敵を鎮めるために。」とあります。何が語られているのでしょうか。実はこの聖句は、主イエス・キリストにより2回にわたって引用されていますので、そちらを先に見てまいります。まずは、マタイの福音書11章25節、26節です。主イエスが力あるわざを数多く行ったにもかかわらず、町々が悔い改めなかった、すなわち方向転換をしなかったために責

め始められた、という脈絡で語られた言葉です。もう一箇所は、マタイの福音書21章15節、16節です。主イエスが子ろばに乗ってエルサレムに入城された時のことです。子供たちだけが「ダビデの子にホサナ」と叫び、祭司長たちや律法学者たちが主イエスを拒絶して腹を立てたときに、語られた言葉です。

詩篇8篇と、主イエスによる引用の言葉より、幼子たち、乳飲みみ子たちこそ真理をつかんでいると言えます。小さい子供たちの感受性はすごいです。小さい子供たちが「楽しい」と感じたら、楽しいのです。小さい子供たちが「こわい」と感じたら「こわい」ことなのです。

### 四、人とは何ものか

3節から8節までは、聖書が人をどのように理解しているかを知る助けになります。詩篇の作者は、「主が天を造られ、月や星々を造られた。主は、なんとすごいお方か」と感動したことでありましょう。そして次のように語っています。4節です。「人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。」と。詩人は、人について、神を知った上で観察しています。このアプロ―チは重要です。創造主を知ることによって、自分がこの世に生を受けた理由を見いだす手がかりを知ることにな

るからです。あるいは、おひとりにしてすべてを支配しておられる全能の神を知ることにより、「なぜこの人と出会ったのか」という理由も分かるようになるからです。

### 五、8篇が語る、人の理解

聖書は人をどのように見ているのでしょうか。ひとりで語るなら、神は人を神の代理者として創造されたということです。神の代理者ですから、神ではありません。聖書は、神と人とのちがいを明確にしています。人は能力があればあるほど、自分は神のような存在であると思うようになります。あるいは自分はその思わなくても、周囲に祭り上げられてしまいます。そして神の裁きが下ります。そうならないために、人とは何ものであるのかを知り、肝に銘ずる必要があります。5節をご覧ください。「あなたは 人を御使いより わずかに欠けがあるものとし これに栄光と誉れの冠を かぶらせてくださいました。」とあります。私たちはどういう存在なのでしょう。神の代理者です。すべてを治めるのは神です。ですが、神は万物を人に支配させました。6節より8節です。「あなたの御手のわざを人に治めさせ 万物を彼の足の下に置かれました。羊も牛もすべて また野の獣も 空の鳥 海の魚 海路を通うものも。」と歌っています。